

2. 各県の甘藷生産状況の推移

表4によれば、畑面積はこれまでと同様に福島、岩手県などが多く、ついで青森県で、宮城、山形、秋田県などはさらに少なくなった。甘藷の作付面積は30年（1955）ころまでは、食糧補給のために20年（1945）ころと大きな増減は見られなかった。しかし35年（1960）以降になると、食糧需給が好転し、面積の多い福島、宮城、山形の各県ともに40年（1965）には22年（1947）に比べ60～70%に減少した。甘藷の作付率は、上記の作付面積と同様の経過を示して、30年

ころまでは高かったがその後は低下した。なお、秋田、岩手、青森県などは戦前と同様に著しい低率であった。

参考として、千葉県の10a当りの収量をあげたが、収量の多い福島県でも千葉県の大よそ50%～60%にしかない。これまで述べてきたように、やはり東北地方の甘藷栽培はいささか無理があるといえよう。しかし、このころまではまだ少々の食糧補給のために栽培されていた。

（つづく）

ジャガイモと映画 『パシフィック・ハイツ』

最近、冷えたスープが静かに広まりつつあります。その代表格はジャガイモ、セロリ、ネギ類を使う『ヴィシソワーズ』。そのヴィシソワーズの出る映画を、と言っても言葉として出るものですが、ようやく見つけました。

サンフランシスコの高級住宅地に夢のマイホームを手に入れた若いカップルがいた。その下を借りた男が、この二人の出方を冷静に計算し、被害者を装って、実はこのマイホームを乗っ取ろうとする。

映画監督は『真夜中のカーボーイ』、『2番目に幸せなこと』のジョン・シュレシンジャー、出演はメラニー・グリフィス、マシュー・モディーンら。

乗っ取りを画策する詐欺師は、ゴキブリを自分で飼育して放って被害者を装ったり、ガンガン釘を打ったりチェーンソーの音を立てたりする。たまりかねた日系人の間借り人は

出て行き、こんな連日の心労で夫は入院してしまう。奥さんは流産してしまうが、ついに自ら詐欺師に立ち向かうことにする。

詐欺師が偽名で投宿しているホテルに、その夫人になりすまして行き、18人の嘘のパーティーを申し込んでやる。そのメニューにヴィシソワーズを入れてもらう。そのくらいでは大して困らないので、彼のカード類を盗難にあったと、カード会社に届けて、使えなくしてやり、彼の車を盗難車に仕立てて足も奪ってやる。こうして、降りかかった恐怖にめげず、女ひとりで立ち向かうのが面白かった。

私のお薦めのヴィシソワーズは、夏分限定ですが、喜茂別町から支笏湖に向かう国道276号左の見落としそうな店『ソーケーシュ』や札幌市内中之島の『穀物祭（こくもつまつり）』などで味わえます。

（いも類研究会顧問・浅間和夫）